

T1 神経根症の臨床的特徴に関する後ろ向き研究に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

2026 年 3 月 24 日 ~ 2028 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 T1 神経根症の臨床的特徴に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 T1 神経根症は、脊髄神経根が障害される疾患の中でも珍しく、全脊椎疾患の中でも1%未満とされています。更に、一般に神経根症では複数の神経根が障害されている場合が多く、T1 神経根のみが障害される「純粋な T1 神経根症」は非常に稀な疾患になります。このような純粋な T1 神経根症に基づいて、筋力低下の分布や臨床的特徴を詳細に評価した報告はごく少数にとどまっています。本研究では、このような T1 神経根のみが障害された症例を複数集め、臨床所見や電気生理学的検査（針筋電図や神経伝導検査など）の結果を後方視的に分析することで、T1 神経根症の臨床的特徴を明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 T1 神経根症の臨床的特徴が明らかになれば、稀少疾患である本症の早期診断に寄与するだけでなく、症候が類似する筋萎縮性側索硬化症や真の神経性胸郭出口症候群など、他の疾患との鑑別にも役立つと考えられます。さらに、T1 筋節の詳細な検討は、解剖学的知見の向上にも貢献することが期待されます。

〔対象・研究方法〕 2011 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに、帝京大学医学部附属病院およびその関連病院（横浜労災病院、亀田総合病院、住友病院）の脳神経内科において、T1 神経根症と臨床診断された症例を後方視的に抽出し、厳格な組入基準を満たした T1 神経根単独障害例を対象とします。対象症例に対しては、診察により得られた各筋の上肢筋力および電気生理学的検査の結果をもとに、臨床症候や筋節について検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科、横浜労災病院、亀田総合病院、住友病院

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人が同定されないように加工したデータとして情報管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及び情報管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学医学系研究倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）にて保管させていただきます。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また、学会や論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究代表者・研究責任者：帝京大学医学部脳神経内科・臨床助手 鈴木郁
研究分担者：帝京大学医学部脳神経内科・講師 神林隆道
所属：帝京大学医学部附属病院脳神経内科
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211)